

2019年9月18日 東京

駐日メキシコ大使からのメッセージ

次世代を担う若者の皆さまへ

広島と長崎への核攻撃によって、軍事目的で活用された破壊力のある技術が明らかになりました。両都市で数十万人もの市民が核爆発により亡くなったのです。

爆発の後には勝利は残らないのです。その結果、すべてが変わるのです。我々が生きていくための食物や飲料水などの天然資源、世界中の生物が呼吸するための空気、人間・動物・植物のDNAなどです。

2019年初めの段階において、推定ですが9か国が13,865発の核兵器を所持しています。とりわけ、その破壊力は1945年以降、強力になってきております。核兵器は、世界人口、環境、世界的な健康問題、食の安全などに重大なリスクを与えているのです。居住地選択の権利確保の問題と同様に、経済発展の妨げになっているのです。

最初の原爆投下の時から、メキシコは一方的に、核兵器の開発を決して行わないこと、あるいはいかなる国もわが国の領土内で核兵器を配備することを認めないとする決定をしました。よって、我が国の憲法では、核エネルギーは平和目的以外では利用できないのです。メキシコはまた、1967年にラテンアメリカを初の非核地帯として確立する取り組みを先導しました。

広島や長崎で経験したような核攻撃が二度と起こらないようにすることが、我々の歴史的かつ連帯的な責任なのです。みんな一緒になって、国際法や国際協力、紛争の平和的解決に基づいた安全な世界を作り上げるため、引き続き努力していこうではありませんか。

メルバ・プリーア
駐日メキシコ大使